

ねりま小中一貫教育レポート

〇●〇 第 21 号 〇●〇

平成 26 年 1 月

発行：教育企画課・教育指導課

「ねりま小中一貫教育レポート」は、小中一貫教育の取組を全小・中学校で共有するため、随時発行しています。第 21 号では、第 2 回連携クリエイター研修「乗り入れ授業報告会」について紹介します。

◆乗り入れ授業の通年実施

平成 24 年度から、3 組の小・中学校において、年間を通して週 1 回程度、小学校教員と中学校教員が協力して小学生を指導する「乗り入れ授業」を実施しています。

旭丘小・中学校では、6 年生が週 1 回、旭丘中に通って数学科教員の授業を受けています。上石神井小・中学校では、上石神井中の保健体育科と英語科の教員が上石神井小へ出向いて、小学校担任と一緒に授業を行っています。八坂小・中学校でも、八坂中の数学科教員が八坂小へ出向いて、小学校担任と一緒に授業を行っています。

練馬区教育委員会では、中学校教員が小学生を教える時間を確保するために、平成 24・25 年度の 2 年間、区費で時間講師を 3 中学校に週 3～6 時間、試行的に配置しています（上石神井中の英語科は区費講師の配置なく、時間割の工夫により実施）。

◆乗り入れ授業の報告

12 月 19 日、上石神井小・中学校で「乗り入れ授業報告会」が開催されました。全校から連携クリエイターの先生など約 180 名が参加して、上石神井小での体育と外国語活動の「乗り入れ授業」を参観したあと、通年で乗り入れ授業を実施するための工夫や子供たちの感想などに関する報告を聞きました。

体育では、天気に左右されずに実施できるよう、体づくり運動、跳び箱、マット運動、バスケットボールなど体育館での単元を中心に乗り入れ授業を実施しています。毎回、中学校教員が作成した指導略案をもとに小学校担任と打合せを行い、中学校教員の専門性と小学校担任のきめ細かな配慮を活かした指導を行っています。運動が苦手な児童にも得意な児童にも「できた」という喜びや達成感を味わわせ、楽しく運動することで体力向上につなげることを狙っています。

外国語活動では、小学校担任、外国語活動指導員（JET）とともに、中学校教員が 6 年生のすべての授業に入っています。外国語活動と中学校の英語の接続を考えながら、外国語活動で英語が「楽しい」と感じた子供たちの気持ちが中学校での英語学習への期待につながるよう、3 人の指導体制を活かして、児童が英語に触れる機会を増やす工夫をしています。

◆目白大学教授 小林福太郎先生の講演

昭和の時代と比べて、核家族化・少子化が進行して兄弟姉妹の人数やよく遊ぶ友人の数が減少し、子供たちの人間関係の希薄化が課題になっている今、果たして学校は社会の変化に正対しているのでしょうか。戦後 60 年もの間、6-3-3 制の教育制度を維持してきた結果、子供の成長の連続性が意識されることなく、小中それぞれが自己完結型の教育活動に陥っているのではないかという反省があり、小中一貫教育によって学びの連続性を確保し、教育効果を高めていこうという動きが全国で始まっています。

学校現場で日々、子供たちと懸命に向き合っている先生方にとっては、小中一貫教育が新たな負担と捉えられることも無理はないと思います。しかし、小中一貫教育が子供たちの学力・人間力向上や中 1 ギャップなどの課題解消に有効であるという目的を明確に見据えていけば、先生方の実践は確かなものになっていくでしょう。

具体的な取組としては、乗り入れ授業などの実践によって、小・中学校の教員が従来の児童生徒観や指導観を見直し、指導方法を改善していくことが求められており、これによって指導力の向上が期待できます。また、中学校教員の組織的な生徒指導や、小学校教員のきめ細かな指導技術や教材活用などから、双方の教員が学び合うことも多いはずです。

さらには、異年齢集団による児童生徒の交流活動は、子供たちの自己有用感、自己肯定感を高める効果があります。例えば、中学生と小学生が移動教室に一緒に行くことにより、日頃は生徒指導上課題のある中学生でも、小学生の面倒をよくみることによって、自分の行動や存在に自信がもてるようになっていきます。

子供たちの健やかな成長の実現をめざして、「今までこうやってきた」という既成概念を崩し、小中の壁を越えて、新しい学校文化の創造に取り組んでいかれることを期待します。その際、完璧な成果を求めようとせず、「8勝7敗」の精神で、腹を据えてねばり強く実践を積み重ねていくことが大切です。

◆参加者アンケートから

- ・実績に裏付けられた安定感を感じる授業だった。たくさんのノウハウが詰め込まれていると感じる。
- ・どのような子供に育成するのかについて、小中の教員が同じベクトルでとらえ指導するのかを整えることが大事だと思った。
- ・乗り入れ授業を出発点に小中の関わりを広げるきっかけになる。
- ・教員が納得して組織で取り組むことの大切さを改めて認識した。
- ・小中一貫教育がなぜ必要かということをも日本の教育の基本理念の変遷とあわせて説明され、わかりやすかった。子供たちを取り巻くさまざまな環境の変化も改めて感じた。
- ・社会や時代の流れに沿った教育の求めの変容を知ることができた。私たち教員の意識改革、指導の向上を重点的に改善することが大事だと思った。